

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872000779		
法人名	社会福祉法人明石恵泉福祉会		
事業所名	恵泉グループホーム		
所在地	兵庫県明石市大久保町大窪2813		
自己評価作成日	平成25年2月9日	評価結果市町村受理日	平成25年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症を発症しても心豊かに過ごしていただけるように認知症疾患別の特徴や症状等を理解することで出来る限りその症状に応じた支援に努めている。24時間軸の記録から心の変化をチームで共有しケアの方向性を明確にしている。栄養士および厨房委託業者と共に栄養管理のもと、季節感を持たせた月2回の行事食を含め、おうちごはんとして三食の食事を提供する事で食事面からの健康管理に努めている。法人他施設と共に委員会(感染防止委員会・接遇委員会・事故防止委員会・拘束虐待廃止委員会・広報委員会)活動を行い、特養・老健・ケアハウスとの連携にてラウンドチェック等の第三者チェック機能を活用し、サービスの質向上を目指している。法人他施設との連携を密に行っているため、退居後のフォローアップ体制が整っている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所が所属する法人は同一敷地内に特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・ケアハウス・デイサービスセンター・クリニックなどの高齢者総合福祉施設を擁し、事業所を除く諸施設では10年前に「ISO 9001」の認証を取得している。事業所では一昨年に管理者が交代した機会に事業所理念を根本的に見直し、より認知症高齢者の地域密着型サービスに沿った5項目の理念を新たに作り、実践に努めている。更に平成24年4月より「センター方式」を導入し、認知症高齢者の尊厳を守るため本人本位の視点を共有し、その人らしい暮らしの継続を支えるべく取り組んでいる。また今年1月には事業所は法人ISO委員会より「ISO 9001」の内部監査を受けた。福祉人材の確保と育成に特に力を注ぎ、同一敷地内の他施設との連携を進めていることが顕著である。毎日の朝礼・終礼で意見・提案が活発に出され運営に反映されていることが窺える。居間の雰囲気は明るく、ご利用者一人ひとりの表情は穏やかで、落ち着いている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyouCd=2871900177-00&PrefCd=28&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成25年3月5日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人経営理念・施設の介護理念を全職員に周知出来るように、毎朝礼時に唱和し、理念に基づいたケアの実践に力を入れている。	一昨年、管理者の交代に伴い新たに「恵泉グループホーム介護理念」を制定した。5項目から成り、より認知症ケアに重点を置いたものになっている。朝礼時に唱和し、玄関に掲示、入所の案内にも明記して、広く周知を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員の方によるボランティアの受け入れや地域の神社へお祭りや初詣に出かけ、地域の方々との交流の機会を増やしている。	地域の祭りに参加したり、ボランティアの受け入れをしたり交流している。昨年認知症の勉強会を開催し、今年は認知症サポーター養成講座を開く予定である。	管理者は、今は地域との関係構築の土台作りの時ととらえ、力を入れている。地域密着型サービスの拠点としての役割を担い、近隣住民が来訪しやすい環境づくりに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に法人として参加し、地域のニーズに合わせた相談に応じているほか、運営推進会議に出席の民生委員より、認知症ケアを実践している施設であるという推薦をしていただき来年度より地域の会議に参加することになった。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設として地域連携を強化していく方向性を示し、その取り組みや行事を報告している。運営推進会議に出席している地域代表の方々、地域のコミセン窓口の方や地域行事などを紹介していただいている。	2カ月に1回開催している。利用者・複数の地区の民生委員ほかの参加で、状況報告をしたり、地域情報を得たりしている。近くの交番の警察官に参加してもらえないか検討している。	市の職員、又は地域包括支援センター職員に参加してもらいたい。家族や消防署職員、警察官などにも参加を働きかけ、多方面からの意見聴取の場として活用してほしい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	明石市ふれあい介護相談員2名が月1回来館し、入居者との交流を通して事業所の状況について気づいたことを職員と協議するなど協力関係を築いている。	市への問い合わせなどの際は、できるだけ役所に出向くことを心掛け、協力関係が築けるよう取り組んでいる。平成25年度よりサービスゾーン協議会に参加することになっており、地域の多方面に渡って、交流が広まることに期待できる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束虐待廃止委員会が、虐待・拘束についての施設内研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2カ月に1回、法人の拘束虐待廃止委員会に参加し研修を行っている。昨年度は行っていた、1・2階各ユニットの出入り口の施錠を取りやめた。一方、表玄関は危険が伴うため、施錠している。	職員は玄関の施錠が身体拘束にあたることを認識している。工夫により危険を回避し、施錠の時間を短くできないか、職員全員で検討してもらいたい。
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人拘束虐待廃止委員会のメンバーとして事業所から委員が出席し、会議の伝達および事業所内研修を行っている。また、事業所内コミュニケーションを密に行い、各職員が虐待防止に対する意識の向上を図っている。	身体拘束と併せて研修を行っている。事業所内の虐待については、接遇委員会でメンタルケアのアンケートを実施し、疲労やストレスのチェックをして気を配っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活相談員が、日常生活自立支援事業、権利擁護に関する制度の研修を職員に行っている。制度利用が生じる可能性のある方に関しては、家族カンファレンス時に制度の内容を解りやすい言葉で伝えている。	現在、制度を利用されている方はいない。成年後見制度・日常生活自立支援事業についての研修を行い理解している。担当者会議で、家族に対して制度の説明をした事例がある。必要な方に渡せるよう、パンフレットを備えている。	
9	(8)		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時・契約内容の改定にあたっては、専門用語はできるだけ使わず、家族が解りやすい言葉を選び説明し、署名捺印をいただいている。	入居の相談時に「恵泉グループホーム入居のご案内」という冊子を渡している。大きな文字で要点がまとめられ解りやすい。入居するといくらかかるかなど、知りたい内容が明示されている。契約時は時間をかけて納得を図っている。	
10	(9)		運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置し、ご家族から施設に意見が伝えやすい環境を整えている。年1回顧客満足度アンケート調査を行い、積極的にご家族のご意見、ご要望を確認し、施設サービスの改善へとつなげている。	年1回、顧客満足度アンケート調査を実施している。家族の要望により認知症学習会を開催するなど、反映している。今年度初めて家族交流会を催した。家族とのより良い関係作りの機会となるよう、定期開催する予定である。	
11	(10)		運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	生活相談員を窓口として、職員から聞き取った意見や提案を管理者に伝えている。また、施設運営会議を開催し、職員間で意見交換を行い、事業所の質の向上を図っている。	毎日の朝礼・終礼時に意見・提案を聞いている。2ヵ月に1回、施設運営会議を持ち、生活相談員を通じて提案を検討している。管理者は年2回、個別懇談をし、労働環境などの意見を聞いている。	
12			就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が上半期下半期の年2回行動目標(3目標)を立案し、達成向上に努力している。その目標に対して2ヶ月に1回、生活相談員が進捗状況を確認している。		
13			職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修や外部研修に積極的に参加している。研修に行ったものは、教育訓練報告書を提出する。事業所にて伝達講習を行い、学んだことを更に展開していくことに力を入れている。		
14			同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石市介護サービス事業者連絡会の認知症対応型共同生活介護小規模多機能型居宅介護部会において定例会に出席、研修会を開催することで、事業者間の交流の活性化を図っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新たな環境による混乱、不安、寂しさがあることを踏まえ、職員は本人の要望を傾聴し、情報を共有するとともに、入居前の生活にできる限り近い生活が継続できるように支援することで、本人の安心を確保する。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の暮らしについて、気になることや不安に思うことなどを積極的に聞きとりを行うとともに、入居者が普段どのような暮らしをしているのかを積極的に伝えている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときにご入居者・ご家族が何を必要としているのか、何に困っているのかを見極め、他のサービスも含めて検討し、その人のニーズにあった対応が出来るように努めている。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事は、全て職員が行うのではなく、入居者が自立して行えるように、できないことをサポートしている。食事は、入居者に炊飯前の米研ぎや献立によりおにぎりを握っていただいている。また、配膳時の盛り付けや茶碗洗い、テーブル拭きなども手伝っていただいている。		
19			本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族による積極的な外出や、宿泊の受け入れも行っている。また、ご家族と認知症の方とのかかわりを支援するため、家族向けの認知症学習会を開催した。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前生活されていた場所や馴染みの場所に職員またはご家族と出かけている。	遠方の親類の訪問時は、利用者の居室に泊まってもらっている。行きつけの美容院や墓参りへ行ったり、馴染みの神社へお参りするなど、家族の協力も得て、関係継続の支援をしている。手紙も敷地内のポストに投函している。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を職員が理解しながら関わることで、入居者同士が互いに関わりあい助けあう関係性を築いている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係性を重視し、継続してフォローをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの想いに寄り添い、関わりの中で得た情報を共有し、ケアプランに反映できるようにしている。	今年度よりセンター方式を取り入れている。日々の会話などから得たご本人の思いや意向を、シートを利用し共有している。生活歴などを家族からも聞きとり、様々な情報を得て認知症のケアに活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し、認知症ケアの視点で、これまでの暮らし方や生活環境を細かく把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間軸の記録シートでカルテ記入をし、その方の1日の暮らし、できること、できないことを見極め、引き出すことができるように努めている。		
26	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「カルテ」「介護経過」記録からモニタリングを行い、カンファレンスにおいて担当職員、計画作成担当、その他の職員が話し合うことで、現状に即したケアプランを作成している。	センター方式で得られた意向に沿った、介護計画を作成している。6ヶ月に1回見直し、担当者会議には必ず家族にも参加してもらっている。看護師や医師の意見も反映している。モニタリングは月1回利用者の担当職員が行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきをカルテへ個別に記録し、必要に応じてショートカンファレンスを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設のルールを押し付けることのないように、その人らしい暮らしをして頂くために、出来る限り、持ち込みの制限はしない。ご家族との積極的な外出やご家族の宿泊の受け入れも行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺が法人高齢者施設であり、身近な社会資源として、法人内の施設の売店へ出掛けたり、施設行事に参加している。また、趣味が手芸の方であれば、近隣の手芸店へ出かけている。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と連携して入居者の健康管理を行っている。体調に変化があれば、ご家族の希望される病院等に迅速に繋げる体制を整えている。	利用者・家族の希望に沿った、かかりつけ医への受診の支援をしている。通院には職員が同行し、日々の様子や状況を伝え、指示を仰いでいる。眼科・皮膚科などへは家族の支援で通院している。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火・金曜日に看護師の訪問があり、入居者の状態の連絡・報告・相談している。また、往診医との連携により、オンコール体制をとっている。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院ソーシャルワーカーと連絡をとり、退院の目途の確認や状態把握に努めている。病院の退院の許可ができれば速やかに退院の受け入れを行い、その後の病院のフォローも受けており、病院との関係作りも出来てきている。	入院時は入院のサマリーを提出し、情報提供している。入院中は見舞いに行き、ソーシャルワーカーと連絡を取り、状態の把握に努めている。退院時はカンファレンスに参加している。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、施設ができることを細かく説明し、施設での生活が困難になってきたときのケアのあり方をご家族と話し合っている。	法人の特別養護老人ホーム3棟が敷地内にある。法人の体制の中で、グループホームの役割は中間施設であると捉えている。契約に際して、重度化した場合は法人全体で支援する方針を説明し、理解、納得を得ている。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会が中心となり、その人の起こりうる事故について、危険予想の視点を養っている。緊急時にはマニュアルに沿って統一した対応を行う。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練(通報、避難、消火訓練)を行っている。夜間を想定した訓練や災害想定での防災避難訓練も行っている。	昨年は4回消防訓練を実施している。夜間想定での通報・避難訓練も行っている。年1回法人全体で防災訓練を実施し、今年は炊き出しの訓練も行った。スプリンクラは設置されており、食料も備蓄されている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会が中心となり、ホスピタリティ精神で入居者や家族の立場に立ったケアを実践することに力を入れている。	接遇委員会があり、研修している。ホスピタリティの精神を基本とした、相手の立場に立って考える接遇を実践している。プライバシーを尊重し、利用者自身で居室の鍵の管理をしている。職員は入室の際にも言葉かけなど配慮している。	
37			利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者の思いが積極的に表出できるように、傾聴することに力を入れ、入居者の自己決定を支援している。		
38			日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活リズムに合わせた個々のケアを重視し実践している。		
39			身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者の服は必ずご自身に選んでいただく。お好きな化粧品を使い、化粧もされている。毎月1回の美容師出張サービスでカット・パーマ・カラーができる。		
40	(19)		食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に箸・スプーン等の配膳と副食の盛り付けを手伝っていただいている。食事の片付けは、洗い物やテーブル拭き、下膳台車運びなどを手伝っていただいている。	おにぎり・巻き寿司作り、ポテト・ケーキなどのおやつ作りの時などに利用者は職員と一緒に調理し、盛り付け・配膳・片付け・洗い物などにも利用者個々に応じた力を発揮できるように事業所は支援している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、同じものを楽しく食べている。	
41			栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量ならびに定時の水分摂取量を記録し、栄養バランスと水分の確保ができているかを確認している。		
42			口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけ・見守り・義歯洗浄を行っている。また、協力医療機関の歯科医と連携して口腔ケアの指導を受けている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の記録から、排泄パターンを把握し、その方に合ったトイレ誘導や声かけができるようにしている。	一部を除いてほぼ全員が排泄自立の状態にあるため、見守りによる支援が主である。排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導、声かけができています。	
44			便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時・10時・3時以外にもお好きな飲み物を選んで召し上がって頂き、できるだけたくさんの水分補給をしていただくように声をかけている。		
45		(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	マンツーマン対応を基本として、一人ひとりの希望に応じて入浴を楽しんでいただくようにしている。	月～土曜日にかけて概ね2～3回午後入浴を楽しんでいただいているが、希望があれば午前入浴、毎日の入浴の対応も可能である。足の冷える方には、足浴を勧めたりして一人ひとりの好みに沿った対応を心掛けている。	
46			安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて、他者との交流や趣味活動を支援しており、その方のペースで過ごしていただくことを重視している。		
47			服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成し配薬時は職員が一度確認した後にご本人と一緒に、名前・日付・服用等間違いのないことを再確認している。また、飲み込まれるまで見守るようにしている。		
48			役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの残存能力に応じた範囲で役割としての掃除・洗濯・炊事・裁縫を行っている。また嗜好品の提供や趣味の支援を行っている。		
49		(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に少人数での外出は季節に応じて行い、一人ひとりの散歩については都度天候気候との兼ね合いで支援している。	事業所は利用者が極力、自然環境に触れるように心掛けており、厳しい季節の時は別にして、同一敷地にある法人他施設の職員・知人に会いに行かれたり、周辺戸外を散歩したり、事業所の庭いじりなどの支援をしている。また家族も一緒に須磨離宮公園に行ったり、姫路城・住吉神社・石ヶ谷公園に出かけたりして外出を支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と共に、他施設の売店に日用雑貨を買いに行くことや近くのスーパーに買い物に行く支援をしている。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、ご自身でご家族へ電話をかけたり、手紙やはがきを書き、投函する支援をしている。携帯電話を所持し使用されている方もいらっしゃる。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて、心豊かに暮らして頂けるように共有スペースである玄関フロア、ユニット内等自然を取り入れながら変化をもたせている。	1階玄関フロア・2階入口・階段踊り場・各ユニット内に生け花が活けられ、また1・2階に見事な雑段が飾られ、季節感が漂っている。居間・台所・廊下・浴室・トイレにいたるまで明るさ・広さ・温湿度・匂いも適切で居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他入居者と過ごす場所は食堂・リビングであり、その時その人に応じた居心地の良い空間を職員が見極め、椅子の位置等を都度工夫をしている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用されていたご愛用の品々や家具等をお持ち頂くように依頼している。馴染みの物に囲まれ、安心して暮らせるようにしている。	居室の掃出し口が大きいので部屋は明るく開放感がある。ベッド・タンス・物入れは利用者の持ち込みとなっており、これら以外にテレビ・こたつ・冷蔵庫などの馴染みのものが思い思いに持ち込まれ、馴染みの環境づくりの配慮がされている。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の鍵は、ご自身でお持ち頂き、出掛けるときの戸締りを行っていただいている。ご入居者ができること、残存力をしっかりと見極めながら支援している。		